

審議結果

審議会等名称：第143回神奈川県総合計画審議会

開催日時：令和6年1月29日（月）14：00～15：20

開催場所：神奈川県庁西庁舎6階 災害対策本部室

※Web会議サービスによるオンライン会議を併用して実施

出席者：◎清家篤、○牛山久仁彦、○小池智子、小野島真、小出寛子、河野英子、小林隆、清水みゆき、関ふ佐子、松行美帆子、渡辺真理、小泉隆一郎、鈴木紳一郎、林克己、海原泰江、瀧博明、古塩政由、大村悠、岸部都、田中洋次郎、谷口かずみ、中村武人、柳瀬吉助〔計23名〕
(◎会長 ○副会長)

次回開催予定日：令和6年3月21日～25日（書面開催）

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 山田

電話番号045-210-3061（直通） ファックス番号045-210-8819

審議経過（議事録）

議題 新たな総合計画（案）について

《資料について事務局から説明》

- 清家会長：ありがとうございました。それでは、ただいまのご報告を踏まえまして、「新かながわグランドデザイン基本構想（案）・実施計画（案）」の審議に入りたいと思います。ご発言のある方は挙手をお願いします。オンラインでご参加の方は、挙手機能でお知らせいただければと思います。それでは、清水委員どうぞ。
- 清水委員：清水です。今ちょうどご説明いただいたところの、資料4の意見番号1「子ども・若者・教育」についてです。修正した後、基本構想23ページに「デジタル技術や専門人材なども」という文言が入りました。提案では「専門職」と言われているのに、「専門人材」としたのはどうしてかという疑問もあったのですが、それはさておき「専門人材」の方を前にして、「デジタル技術」を後にした方がいいのではないかと提案です。「デジタル技術や専門人材」と言うと、デジタル技術の専門人材かと誤解を招く可能性もあると思うので、「専門職人材やデジタル技術」の順番の方がいいのではないかと思います。
- 清家会長：ありがとうございます。清水委員からご提案がありました点について、いかがでしょうか。事務局からお答えいただけますか。
- 馬淵総合政策課長：貴重なご意見ありがとうございます。今いただいた清水委員のご意見は、その通りかと思しますので、修正する方向で検討させていただければと思います。
- 清家会長：清水委員よろしいですか。はい、清水委員どうぞ。
- 清水委員：重ねてですみません。先ほど、牛山副会長から報告があったところで、意見番号9の、伊達委員の医薬品のところがありました。ここがふさわしいのかどうか分かりませんが、最近、若者だけではないと思うのですが、オーバードーズの問題も結構深刻で、この薬品管理のところ、若者に対する一般市販薬の適正な販売や規制などが最近非常に取り上げられることが多いので、もし入るようなら、ご検討いただけたらと思います。

- **清家会長**：この点についても何か事務局からお答えいただけますか。
- **馬淵総合政策課長**：ありがとうございます。オーバードーズの問題は、どの項目に入れるのがふさわしいかを改めて検討した上で、調整させていただければと思います。
- **清家会長**：ありがとうございました。清水委員よろしいですか。それでは他にいかがでしょうか。小林委員どうぞ。
- **小林委員**：東海大学の小林です。大変立派に取りまとめていただき、感謝しています。特に、ロジックモデルに踏み込んでいただいて、この内容をしっかりと踏まえて事業を展開していただければと思います。ロジックモデルの効果として、その体系が整っているかどうか、ロジックが合っているかどうかの確認も大変重要ですが、それと同時に、いざ、政策が実行段階に入ったときには、我々もしっかり議論しつつ、実行結果に問題があれば、躊躇なく、中止あるいは見直しといったことにも、取り組むべきではないかと思いました。
それからもう一つ、県民の方からA Iについての提案が出ていました。特に内容の修正を希望するものではありませんが、A Iやデジタルサービスについて、特に2040年に団塊ジュニア世代が65歳以上を迎えると、おそらく介護サービスですとか、家族の形態もだいぶ変わって、見られる不安よりも、むしろ「見られない不安」というのを感じられる方が、たくさん出てくるのではないかと思うのです。一人ぼっちで暮らしていらっしゃる方が、自分で申請をしなくてもサービスを受けられるようにすることが必要になるかと思えます。今のような申請をしなければサービスが受けられないという状態では想像することは難しいと思いますが、今、A I技術でもう一つ進んだ技術として議論されているのが、能動的推論です。そうした最新技術の進み具合を見て、今回の計画には書き込む必要はないと思いますが、今後、能動的推論などの技術が進んできたら、パターン認識などと組み合わせ、必要のある方に必要なサービスを提案ができるような、今までの申請主義から少し前へ進む可能性について、注目しながら事業を進めていただけると嬉しいと思います。
- **清家会長**：ありがとうございました。それではほかに何かご意見ございますか。渡辺委員どうぞ。
- **渡辺委員**：ここまで取りまとめていただきましたこと、心から感謝を申し上げます。私からも、修正や追記といったお願いではなく、小林委員のお話に添える形になりますが、今後にむけての希望をお伝え致します。これから加速するデジタル化の中で、デジタル庁ほか省庁関連のシンポジウムなどの司会をしておりますと、市民、国民の皆さまが抱えているのは、誰も取り残されない明るいデジタル社会という未来像よりも、どちらかというと漠然とした懸念の方が強いといったデータを目にします。つまり、便利にはなるはずだけれど、置いていかれるのではないか、自分だけ取り残されてしまうのではないかという漠たる不安が全体的に色濃くあるという意味です。もちろん、地域差、年代差、デジタルになじんでいるか否かの個人的な意識差はあるものの、デジタルの加速やデザインでの解決が地方在住の方々や高齢層の方々にこそ、これからの一助となっていく側面を考えると、そういった不安を汲んだ上で、どうぞ理解を深めていけるか、文章に落とし込んでいけるかということが課題になってくると思います。今後は特にそういった面も踏まえて議論を進めていただければ、ありがたく思っております。
- **清家会長**：ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。林委員どうぞ。
- **林委員**：今回から参加ですので、今までの議論、プロセスや皆様のご苦勞などを全て理解してはおりませんので、大変恐縮ですが、率直に思っていることを意見させていただきます。私も、どこかを変えて欲しいという意見ではありませんが、労働組合の出身なので、深刻な労働力不足を大変懸念しています。先ほど

のプロセスの中でも、その部分は追加していただいたという話も聞きました。(案)を見させていただきますと、実施計画の26ページ「多様な人材の活躍促進」のところ、深刻な労働力不足が起きますので、この部分のテーマは違和感がなく、むしろ充実強化しなければならないという認識です。その認識の中で、次のページの表現だけ見ますと、大変失礼な言い方で恐縮ですが、セミナーへの参加者数がKPIになるということは、理解できないわけではありませんが、もっと骨太のところ、どのぐらいの労働者を、どういう分野で、どういうふうに確保していかなければならないのかということであったり、外国人の労働者を神奈川県はどのぐらい増やしていくのかといった対応など、そういった深刻な労働力不足がどのぐらい発生して、どのように対応しなければならないのかといったところを、もう少し突っ込んでいかなければいけないという課題認識を持っています。それは、2040年の姿の中には表れていると思うのですが、今回のこの4年間のパートでは、このレベルということなのかもしれないという理解は一応しています。しかし、2040年までのロードマップみたいなことを考えたときに、どの段階から、私が言ったようなことを議論する予定なのかとか、議論する前提があるのかとか、その辺が読み取れていないので、今回のこの(案)を云々ということではないですけども、そろそろ労働力不足に対応することを考えなければいけないという問題意識を持っています。そのことはどこかで考えていくべきだろうと思いますし、今回のタイミングでなければ、次の実施計画での見直しになるかもしれませんが、ストーリーを作っていくということは、確実に必要だと思っています。こういった形で反映していただけるか分かりかねますが、今後の議論の中にそういった項目とか、議論の中にそういうプロセスを入れていただくなりをしていただいた方がいいかなというふうに感じました。

- 清家会長：ありがとうございます。他にご意見ございますでしょうか。関委員どうぞ。
- 関委員：資料のまとめどうもありがとうございました。今後に向けての意見というのが主な点でございます。資料3の実施計画案の121ページ、計画の進行管理のところ、アスタリスクを入れて計画のPの部分を中心とするという観点を盛り込んでくださり、どうもありがとうございます。地域におけるつながりづくりですとか、様々な県で行っている政策は具体的なKPIでは示せないものがとても多くあると思われまので、そうした点に注目し、評価できるような議論を、今後も計画推進評価部会で行っていただければと思っています。その意味で、入れていただいたロジックモデルは大切であり、これまでのご意見もありましたように、そこをしっかりと、今後ともご検討いただければと思います。
もう1点、先ほどまでの議論でもありましたように、実施計画(案)の5ページにある「やさしい社会の実現」という目標の言葉は、デジタル化を進める中でとても大切な観点なのではないかと思っています。そうすると基本構想の方も、もう少しこの点を目立たせる形で入れてもいいのかなとお話を聞きながら思いました。以上です。
- 清家会長：ありがとうございました。それでは他にいかがでございますでしょうか。はい。鈴木委員どうぞ。
- 鈴木委員：はい、鈴木でございます。参考資料2は、全体的によくまとまっております内容について意見があるわけではないのですが、県民意見の募集等の概要というところで教えていただきたいのですが、今回290件あって、県民意見が273件で市町村は17件しかなかったということですね。この前のランドデザイン基本構想を見ますと、前回のときには2回に分けて、県民の意見が1,072件あって、うち市町村の意見が440件あったんです。今回すごく少ないなと思ったのですが、しかも70代、80代は0件。これは何か理由があったのか伺いたいです。
- 清家会長：では事務局からお答えいただきます。
- 馬淵総合政策課長：はい。ありがとうございます。参考資料2は今回素案についてご意見をいただいたも

のを抜粋してございます。今回のほか7月、10月にも意見を伺っておりまして、その際には、387件、448件いただいており、今回と合わせて合計で1,005件の県民意見、市町村意見は120件となっております。今回、年配の方が少なかった理由について、こちらではわかりませんが、前2回の時は年配の方にもご意見をいただいております、幅広い世代から意見を頂戴できているところです。

- **鈴木委員**：もう1つだけ良いですか。そうすると、市町村意見が全体的にはかなりあるということですが、様々なKPIの中に、市町村にお願いしないといけないものもたくさんありますが、その辺りは十分に話し合われて決定したということによろしいでしょうか。
- **馬淵総合政策課長**：委員のおっしゃる通り、市町村にすべてお示しし、意見を聞きながら作っているところでございます。
- **清家会長**：ありがとうございます。それでは、オンラインから小出委員がご発言を希望されておりますのでよろしく願いいたします。
- **小出委員**：前回の議論の中からKPIやKGIについて色々とアクションを取っていただきましてありがとうございます。1つだけ、実施計画の教育のところ、今後の運営、施策の中で考えていただきたいというポイントだけコメントさせていただきます。
今、企業から見ますと、理科系・技術系の人材の不足が非常に大きな問題になっています。その中でも特に、女性の技術系人材の確保というのが非常に難しいという状況でして、女性活躍推進という観点からも事務系だけではなく、技術系の女性の人材をさらに増やしていきたいという強い希望があります。
これは、大学を卒業する理系の女性人材を獲得するというだけでは必要な人材はまったく足りませんし、大学卒業時では遅すぎると実感しています。理科系の勉強や仕事が男性のものだという、アンコンシャスバイアスが若い方の中でもあると思っています。大学に入る前に、小学校・中学校・高校の早い段階でそれを取り除いて、理科系・文系問わず、女性も色々なオポチュニティがあるということを、小・中・高の段階から教育の中に取り入れていただきたいと思います。また、中学・高校で理科系を目指している優秀な女性の生徒は、理科系＝医学部という発想が強く、工学系や理学系に行く方が非常に少ないです。このあたりの早期のSTEM教育や、アンコンシャスバイアスを取り除くことに関しては、是非この教育という領域の中で色々な施策を今後打っていただきたいと願っております。
- **清家会長**：この点については事務局から何かありますか。
- **馬淵総合政策課長**：貴重なご意見ありがとうございます。プロジェクト2の教育のところ、「理数教育の推進」について触れさせていただいているところですが、いただいた意見は教育局等にも情報共有させていただき、取り組んでいければと考えてございます。
- **清家会長**：ありがとうございます。それでは柳瀬委員、お願いいたします。
- **柳瀬委員**：私からは1つお聞きしたいと思います。審議会も終盤なので、色々直すというところも難しいと思います。総合計画も大分ブラッシュアップされてきたとは思いますが、これまでを通じ当局として反省点は何かでしょうか。4年後や10数年後にまた策定することになると思います。色々な委員の方や議会から意見があると思います。それを踏まえてどうするのか。これは初めてではなく、4年前も同じようなことを指摘されていると思います。私が考える改善点で言いますと、今回、事務局の皆様は、パッチ修正をすごくやられたと思います。特にロジックモデルは、皆様から分かりにくいという意見があり、作ったものと認識しております。しかし、所詮は後付であり、最初に出てくる案のレベルが低い点が大変残念に思います。具体

的に、改善点は次の2点です。

まず1点目は、ロジックが分かりにくいと思う階層がたくさんあるということです。ある大学の先生からは、これが学生のレポートで出てきたら突き返すレベルだという評価がありました。それを受けて事務局の皆様はパッチを作りましたが、元が悪すぎるあまり、ロジックモデルにうまく当てはまってない部分がたくさんあると思います。もう今更それを直せないのでもいいですが、次回の改善点として、最初からロジックを明確にしてほしいと思います。

2点目は、KGIとKPIが分かりにくく、また適切かどうか分からないという点です。総合政策課の皆様には、各局が設定したKGIとKPIがいまいちだと思ったら、より厳しく訂正してほしいと思います。議会でも議論しておりますが、初めの段階でもっとレベルアップしてもらわないといけないと思います。

まとめますと、私が考えるその改善点というのは、最初のフレームをもっとシンプルにきちっと作っておくということと、KGIとKPIが各局からあがってきた段階で、もっと総合政策課の方々が関与して、レベルアップさせてから、私たちに出して欲しいと思います。本来、この部会も、この審議会も神奈川県の実情はどうあるべきかということをご出席されているプロフェッショナルの方々から、意見を伺う場としたいと思います。しかし、残念ながら前述の2点が弱いので、どうしてもそうした議論をせざるを得ないという側面があります。私はそうした改善点があると思いますが、事務局はどうお考えなのか意見をお聞かせいただきたいと思っています。

○ 清家会長：では事務局からお答えいただきます。

○ 馬淵総合政策課長：ロジックモデルは、このタイミングで追加させていただきましたが、このロジックモデルは、プロジェクトのつくりを考えると局と調整をしながら、形にしてきました。モデルの体系図を示したのは、このタイミングになりましたが、モデル自体はもともと作っていたものでございます。その上で、そのKPIの目標の妥当性、それから設定の水準につきましても、局と調整をしながら、詰めてきたところがございます。それで喧々諤々議論しながら、こういった形で当局としてまとめて、皆様にお示ししてきたところです。おっしゃるような、不十分なところがあるかもしれませんが、現状できうる精一杯なものを作り上げてきているつもりでございます。その上で、今回ロジックモデルを出させていただきました。先ほど小林委員から発言がありましたが、ロジックモデルは、検証のタイミングで使うことが、大切だと思います。ロジックモデルは、あくまで仮説であり、本当にその施策の繋がりを実現できるのかということ、検証を通じて改善に取り組んでいくことが、目的だと思います。今回、皆様にロジックモデルをお示しすることにより、そうした点検・評価の議論もしっかりとできるのではないかと思います。したがって、ロジックモデルを作った終わりではなく、これをどう次の改善につなげるのか、ひいては4年後、次の実施計画を作るタイミングに、どう生かしていくのかということ、引き続き、県としてもしっかりと真摯に取り組んでいきたいと考えてございます。

○ 清家会長：ありがとうございました。それでは牛山副会長どうぞ。

○ 牛山副会長：事務局へという話でしたが、計画策定専門部会部会長として、一言申し上げたいと思います。委員におかれましては、部会の方にも大変関心を持っていただいて、心より感謝しております。その上で、確かにご指摘の様々なご批判というものも、色々考えなくてはいけないところがあったと思います。その一方で、様々な政策分野で、考え方や県民のご意見も様々だと思います。先ほどAIのお話が出ましたが、個人的な意見では、神奈川県は個人情報保護条例を全国に先駆けて作って参りましたが、いつの間にか個人情報保護法で、それらも全部廃止せよとなっています。電子化、デジタル化も国主導で進めていくことになっていますが、取り残されるのも確かに困るし、取り残される人がいても困りますが、私はどちらかということ、もう少しほっといて欲しいなと思っているところがあります。自由はないのかとか、こんなことを言い出すと、本当に1つの政策分野をとっても、部局としてもそれから県としても、非常に悩ましいところがたくさん

ん出てくると思います。併せて、ロジックモデルや評価の問題についても、これは私ども行政学の専門から言いますと計画論とか、どのように組み立てていくかというのは、かなり議論があるところだと思います。

そういう意味では、県の当局も、それに苦慮しながら作っていただいたなと思っています。それからもう1つ、少し余計なことを申し上げましたが、今度は県議会の方で、県民のご意見をしっかり踏まえて、計画の方に、どんなふうに反映されているのかご議論いただいて、そうしたことを先進的な県として次の計画の発展につなげていただければと思う次第でございます。

○ 清家会長：ありがとうございました。柳瀬委員、よろしゅうございますか。

○ 柳瀬委員：皆さんがブラッシュアップされてきたことは本当に感謝します。よく本当にやってくれたなと思うのですが、ぜひ、次回またチャンスがあったら、次の人に引き継いで、しっかりとお願いしたいと思います。以上です。

○ 清家会長：ありがとうございました。では中村委員どうぞ。

○ 中村委員：はい県議会議員の中村でございます。今日だけでなく、これまでこの審議会で我々委員が議論する資料を作っていただいたこと、まず御礼申し上げたいと思います。事務方の皆様ありがとうございました。また、審議会だけでなく、代表質問、一般質問、あるいは常任委員会、我々議会の様々な意見に耳を傾けていただき、反映されていることがわかりました。その点に関しても、お礼をお伝えしたいと思います。この時期なので細かい質問というよりは、意見を3点ほど述べさせていただきたいと思います。

1点目は先ほど柳瀬委員から質問があり、点検・評価が重要だというような答えがあったと思います。是非、実施計画の期間である2027年に向け、これは計画でありますので、その1年前には、やはり見直しをしていただきたいです。釈迦に説法になるかと思いますがKPIというのはKGIを達成するための1つの数字であると思います。そうであるならば、KPIの数字が達成しているのに、KGIすなわち指標の数字が達成できなければ、何か他に原因があるのではないかと、こういうことを試行錯誤するのが、まさにこのロジックモデルといえますか、KPIのいいところでもありますので、それを目標である2027年の1年前には、是非とも見直しをする機会が重要だと思っております。見直しがあったからといって、決して間違っているということではないと思います。あくまでもこれは仮説という話ですから、プロジェクトを進めていこうということなので、そこで追加するというのは間違いではなく新たな発見、或いはKPIを変えようとか、そういうことにも繋がりますので、意識してやっていただければと思いますので、まず1点目、意見を申し上げておきます。

2点目ですが、先程から出ているロジックモデルについて、これは作って終わりではないという意見が出ておりました。私がこんなことを言うのも恐縮ですが、全ての県職員の皆様に、このことを頭に叩き込んでいただきたいと思います。今の職員の皆様は、多くの方がこのロジックモデルのことを頭に叩き込んでいただいていると思いますが、数年前はKPIとKGIの関係性なんかないということを言っている職員がいたことも事実としてありますので、そこはせっかく作ったのですから、全職員の方がこれを頭に入れて、しっかりと繋がりを持って、普段から施策、事業を考えていただければと思います。

3点目ですが、今日、目から鱗が落ちたこととして、林委員が本日初めて出席し、意見を言われてハッとしました。我々は通年で議論していると前回の議論を踏まえて、次の議論を構築するので、どうしても新たな視点というものを忘れがちになると思います。それが初めて出席してパッと第一印象で意見を言うと確かにそうだなという気づきがあります。最初から最後までずっと通して議論することも重要ですが、新しい人が入って、第一印象で意見を言ってもらうことも、議論が活発になるといいますか、もう1回私達がゼロベースで物事を考えるには非常にいいことだと思いました。審議会をどういうやり方で進めていくかについては、もちろん皆様の意見があると思いますが、新たな人を途中で入れてみることもいいのかなと思いましたので、そのことも意見としてお伝えしておきたいと思います。以上です。

- **清家会長**：ありがとうございます。他にご意見はございますか。では古塩委員、どうぞ。
- **古塩委員**：K P Iの話ですが、K P Iに市町村の取り組みが入っているものがあります。実施計画の10ページにプロジェクトのロジックモデルの説明がありますが、例えば、プロジェクト1「子ども・若者」に「結婚支援に取り組む市町村数」というK P Iがあります。これはどういう目標の達成なのかわかりません。なぜなら、県が出した目標に対して、全市町村がこの目標に向かって取り組んでいくということがはっきりしていれば、この目標は上がっていくと思いますが、市町村によってスタンスが全然違います。もうこの取組は終わっているという市町村も結構あると思います。そうすると、このK P Iはあまり有効ではないのではないかと思います。県の目標と市町村の目標は違います。K P Iとして設定するのであれば、県の目標に対して全市町村が達成度を気にして、頑張っているなら、このK P Iは有効だと思いますが、全市町村で頑張っているかどうかかわからない、この結婚支援については、10年位前に市町村でかなり取り組んだものでもあり、うまくいかなかった取組でもあります。例えば、結婚支援に取り組む市町村数が増えたといいます。ただ、このプロジェクトの指標は県民ニーズ調査というアンケートで決まります。全く関係ないとは言いませんが、まだまだわかりにくい取組でもあります。どちらにしても、市町村と一緒に取り組んでいくようなものになっていないとK P Iはあまり有効ではないと思いますので、中村委員が言われたようにK P Iを見直す必要があるのではないのでしょうか。
- **清家会長**：ありがとうございます。事務局の方でお答えいただけますか。
- **馬淵総合政策課長**：今の古塩委員のご意見にコメントさせていただきます。貴重なご意見ありがとうございます。我々も市町村と連携して取り組んでいくことが大事だと思っています。連携して取り組んでいく中で、県としてもしっかりと汗をかき、市町村の皆様と一緒に取り組んでいきたいという思いで、このK P Iを設定させていただいております。その結果、県と市町村が連携して結婚支援に取り組む市町村数としてK P Iに設定をさせていただきました。以上でございます。
- **古塩委員**：県が主体的に取り組んだ結果、市町村が取り組むことになるK P Iならまだわかります。市町村が取り組んでいることを漠然と見ていて、その結果だけを見たものであるならば、手法としてはあまり意味がないということを言いたかったところです。ありがとうございます。
- **清家会長**：ありがとうございます。他にご意見ございますか。よろしゅうございますか。それでは、ただいま皆様方からいただいたご意見を踏まえて、県議会へ提出する新たな総合計画（案）については、基本的にただいま事務局よりご報告いただいた案としてまとめたいと存じます。
今申しましたように、本日いただいたご意見をできるだけ取り入れていただくように、私としてもいたしたいと存じますが、文言の調整等につきましては、会長にご一任いただければと存じますが、そのような取り計らいでよろしいでしょうか。
- **委員一同**：（異議なし）
- **清家会長**：ありがとうございます。それではそのようにさせていただきます。また本日までのご議論を踏まえまして、知事に提出する答申を、副会長とご相談しながら作成してまいります。委員の皆様にはこの点について、後程、文書にて答申案を意見照会した上で、書面開催にて審議会を行い、答申内容を決定することといたしたいと存じますが、そのような形でよろしいでしょうか。
- **委員一同**：（異議なし）

○ **清家会長**：ありがとうございます。それではそのようにさせていただきます。では本日の審議をもちまして、新たな総合計画（案）に対する議論が終了し、2月の県議会におきまして議案として提出後、ご議決いただければ、一通りの審議は終了ということとなります。最後になりますけれども、この1年間、新たな総合計画の策定に関し、様々な議論を重ねて参りましたことについて、この1年を振り返り、私の所感を一言だけ述べさせていただきます。

今、委員の先生方からのお話、それぞれ私も聞きながら聞いておりました。大変熱心に、また忌憚のない意見を伺わせていただいたこと、本当にありがたく思っております。私が申し上げるまでもないのですが、神奈川県は、大都市もあり小さな市町村もあり、また産業的にも、農林水産業から製造業、サービス業、観光業と、ある面でいわば日本の縮図のような県だというふうに思っております。それだけに実態の把握もなかなか難しいですし、それぞれに対する施策というものも、多様になってまいりますので、それを1つの総合計画（案）として、まとめるというのはなかなか大変な仕事だったというふうに思います。もちろんこれから色々とブラッシュアップをしていかなければいけないところはあるかと思っておりますけれども、お陰様で、このような（案）がまとめられたということは大変ありがたく思っております。特に、牛山副会長をはじめ、部会の先生方には、何度もお集まりをいただいて、この計画をより良くするために、熱心に議論をしていただきました、改めて御礼を申し上げたいと存じます。幅広い実態を踏まえた上で、できるだけ論理的な報告書を作る上で、大変資するところがあったかと思っております。先程から委員の皆様方からも、これは後の検証こそ大切だというふうにおっしゃってございましたけれども、まさにそのとおりでございます。もちろん計画ですから、できるだけ計画どおりになることが望ましいわけですが、事務局の方からも1つの仮説という発言もございましたが、仮説というのは、もちろんそれが正しいというふうには検証されることがうれしいわけですが、実は、正しくなかったというふうには検証されるということも、もうその（案）は二度と使わなくてもいいということが分かったという意味では、意味のあることなので、検証の結果、必ずしもこの計画は良くなかったなということを確認できるということは、すべて計画が否定されたということではなくて、次に進むためにも大切なことだと思っております。その意味で、今回、私はこのロジックモデルを取り入れ、検証もしっかりできるように1歩前進したということは、大変ありがたいことだと思っております。改めて委員の先生方に、厚く御礼を申し上げたいと存じます。

最後に少し個人的なことになり恐縮ですが、私は今年でこの審議会の会長をお引き受けして10年目になりますので、今期でこの審議会を卒業させていただきます。もう1回書面の審議はございますけれども、皆様にこのようにお目にかかって、お話しするのは最後の機会でございますので、改めて御礼を申し上げたいと思っております。私はこの審議会の会長になりましたときには、神奈川県内にキャンパスを持っている学校法人の責任者でございましたので、そういうご縁があったかと思っております。さらにもう少し個人的なことを申しますと、私は結婚してから初めて住んだのが鎌倉市という、この県内の海岸の町でございまして、そこで小さな子供たちも育てたりいたしましたので、神奈川県というのは、そういう面でも思い入れのあるところでございますし、さらにもっとさかのぼりますと、小さな子供の頃に藤沢市にある江の島でヨット教室に通ったりしておりましたので、そういう意味でも神奈川県というのは思い出深い場所でございます。そういう神奈川県総合計画の策定に携わる機会を与えられましたことは大変ありがたく、光栄に思っております。これまで本当にありがとうございます。これからは外から神奈川の動きを注視しつつ、また応援をさせていただきますと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございます。それでは事務局からご挨拶をいただきたいと存じます。

○ **中谷政策局長**：清家会長ありがとうございます。本日は大変ご熱心なご議論いただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様には、昨年度、かながわグランドデザイン第3期実施計画の点検から、本日まで長期間ご議論いただきまして、深く感謝いたします。これまで委員の皆様からいただいた貴重な意見により、より良い新たな総合計画の（案）を作り上げることができましたので、この後の手続きに入りたいと思っております。

特に清家会長におかれましては、私が総合政策課長時代に、会長職をお願いしまして、この10年間、長きにわたり非常にご尽力いただいたと思っております。この10年間、政府の審議会や会議など様々な座長や議長もお務めされ、特に私ども神奈川県としても、自治体戦略2040構想研究会については参考にさせていただいた次第です。そこでは、この総合計画の目標年次に相当する2040年、これは国でも高齢者数のピークを迎える年次で、その年次に向けて自治体のあり方を様々な観点からご提言される、そういった研究会で、その答申も参考にさせていただいたところでございます。昨年の夏に県の幹部で、それを題材にして議論しまして、そこで得た結果も、この総合計画に盛り込ませていただきました。先ほど委員からもお話がありましたように、市町村の補完機能、総合調整機能など、県の役割はますます重要になってきていますので、そういったところも、色濃くこの計画に反映させていただいたと考えております。そして牛山副会長におかれまして、同じ時期に審議会の副会長、計画推進評価部会、そして今年度は計画策定専門部会の部会長を務めていただきまして、非常に活発な議論をしていただき、ご活躍いただいたと思っております。非常に残念でありますけれども、今年度、規定により最終年度となるお2人に、今回新たな総合計画づくりに最後までご尽力いただき、何とか答申までこぎつけるところまで行ったことは、私個人的にも、非常に感慨深いところでございます。今回の総合計画は、コロナ禍を経て、不測の事態に備えて検討を始めたところでございます。今年、年の始めから能登半島地震が起きるなど、不測の事態に備えることの重要性を改めて認識するような出来事もございました。また、国際情勢も依然として不透明で、不確実性の高まりを実感するところでございますけれども、ご議論いただいた新たな総合計画に示した基本構想、そして将来像の実現に向けて、県としてもしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。先ほど知事からの挨拶にもございましたが、この後、新たな総合計画に関しては、2月県議会に提出し、議論が行われます。また委員の皆様におかれましては、今後、答申(案)についてご意見をいただきたいと存じますので、引き続き、神奈川県政にご協力賜りますよう、お願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

- **清家会長**：ありがとうございました。それでは、本日の議事については、以上をもって終了とさせていただきます。事務局に進行をお返しします。
- **佐藤課長代理**：今日は、熱心なご審議ありがとうございます。事務局から1点お知らせがございます。新たな総合計画に関する審議は本日が最後となりますが、この後、3月下旬に清家会長から知事に手交していただく答申(案)のとりまとめに向けまして、委員の皆様には2月下旬頃に事前の意見照会を文書で行わせていただき、いただいたご意見について会長、副会長とご相談しながら、総合計画審議会としての最終的な答申(案)を3月下旬頃、書面開催という形でご確認いただくことを予定しておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。
- **総合政策課**：以上を持ちまして、本日の審議会は閉会といたします。どうもありがとうございました。